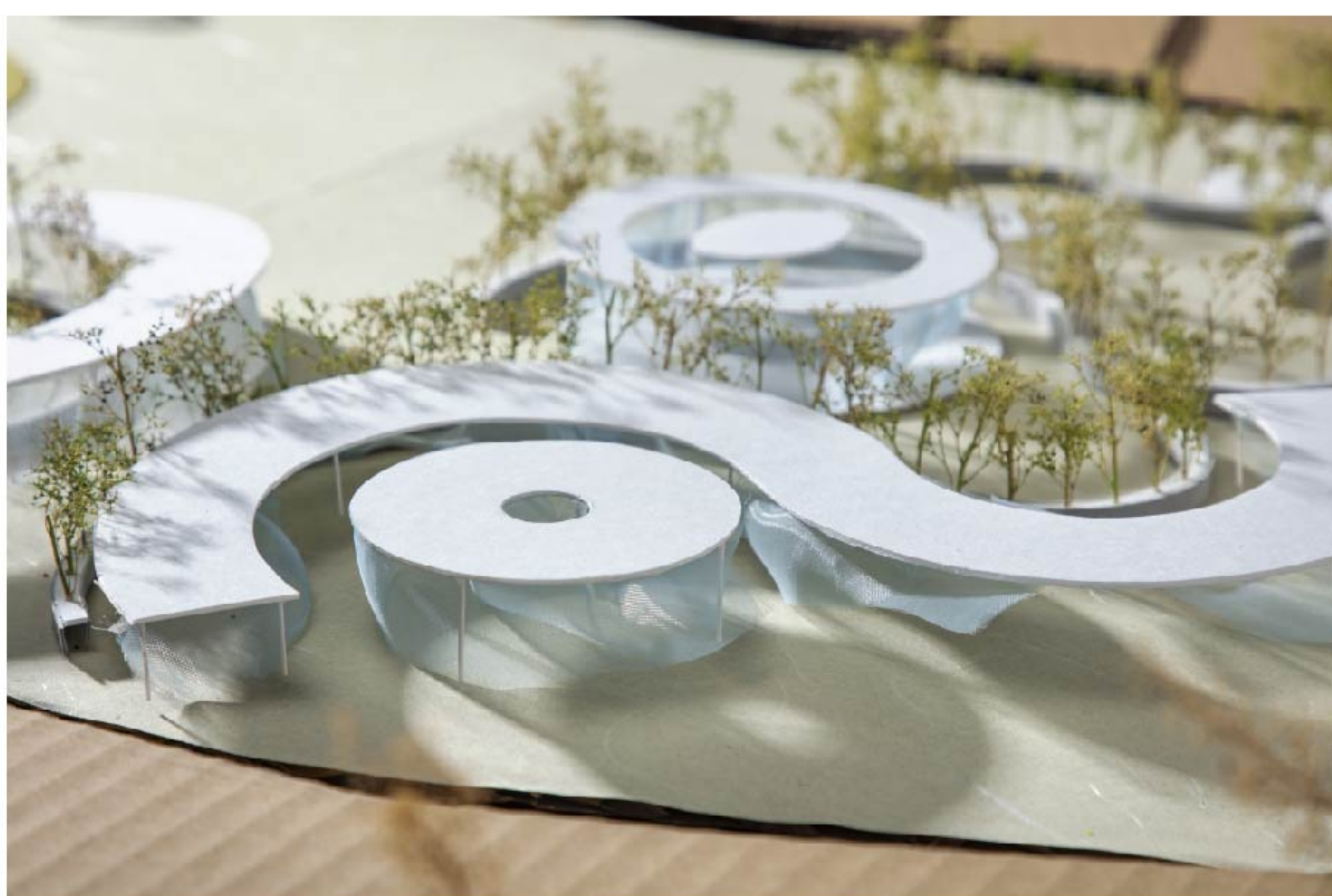


石 雪琪  
SHI XUEQI



## 木陰の間を流れる

ダンボール スチレンボード 布



## 「木陰の間を流れる」 Flowing In The Shade

コロナ禍の時代に、公共空間のあり方は大きく変わった。人と人は距離感を取り、公共空間の利用頻度と人の活動が減少するなど、空間の「公と私の区別」がよりなされるようになった。そこで、「コロナ禍時代における公共空間の新しい飲食空間」を考えた。これまで、自分の空間研究において、屋内外の空間形態を模索してきた。素材については、半透明の布、木材柱などのマテリアルを用いて、空間的な視覚の開放感を満たすとともに、個人のプランパシーを守る空間表現に取り組んだ。

自身の研究テーマである「流動性を持つ公共空間に関する——ストレスを減らす飲食スペースを中心として」の考察から、流動性の理解によって、三つの表現に分けられた。一つは、流動的柔らかい曲線を持つ形態構造。もう一つは、自然の光と影が空間を流れる状態の変化。三つ目は、人々が空間を移動する動線。

ストレスを減らすために、食空間とストレスを減らす関係研究し、公園緑地を調査して、ストレスを減らすものとして「自然」「笑う」「コミュニケーション」「生命力」、4つのポイントを得た。今回、修了制作のテーマは「木陰の間を流れる」公共空間において、ストレスを減らす飲食スペースのあり方空間の流動性視点から取り組んだ。流動性の特徴性を活かし、自然の光と影に囲まれ屋内外の空間でレストランと違うダイニング空間を目指した。食空間の機能性を満たしながら、自然に溶け込み、ゆったりとした気分で楽しむ公園内の飲食空間を制作した。

そのほか、公園と空間についてさらに調査を行った。自然と人と空間の関係を通じて、公園を飲食スペースを結ぶ自然と共生する豊かに公共空間をデザインした。この作品は都市公園の利用頻度を高めるとともに、公園用地便益施設産業の発展を牽引する「コロナ禍時代の飲食空間」の表現である。